

2014年12月25日

横浜ゴムの空気式防舷材、全サイズでISO17357-1:2014への対応を完了

横浜ゴム（株）は、空気式防舷材の国際規格 ISO17357-1：2014 の全サイズでの認証を取得し、同規格に基づく生産を順次開始している。ISO17357-1：2014 は高压空気式防舷材の材料や寸法、性能などを規定したもので、ISO17357：2002 をベースに 2014 年 1 月に新規発行された。空気式防舷材は内部に空気を内包したゴム製の緩衝材で、船と船、船と岸壁の間に浮かせて使用する。洋上で原油や LPG などを移送する 2 船体間荷役時に必須の製品となっており、世界的な資源開発の活発化に伴い需要が伸びている。

ISO17357 は 2002 年、横浜ゴムの空気式防舷材の仕様、性能を基準として制定された。原油の 2 船体間荷役は原油流出など重大な事故につながる恐れがあるため、空気式防舷材には厳しい安全性が求められる。横浜ゴムの空気式防舷材は耐久性や強度など品質面で高い評価を得ていたことから、国際標準に採用されてきた。品質および性能の低下防止と荷役の安全性向上を目的として 2014 年 1 月に発行された新規格は (1) 防舷材の性能に大きく影響する補強材（タイヤコード）の指定、(2) 開口部である金具のサイズの規定、(3) プロトタイプ認証の 10 年更新の義務化を定めている。

横浜ゴムは、世界的なタイヤメーカーであると同時に空気式防舷材やマリンホースの分野では世界トップクラスのメーカーでもある。1958 年に世界で初めて生産販売を開始した空気式防舷材は世界市場でおよそ 6 割のシェアを占め、洋上 2 船体荷役において主要な役割を果たしている。現在、空気式防舷材の生産は国内で行っているが、インドネシア・バタム島に海洋商品の新工場を建設中で 2015 年下期の稼働を予定している。



横浜ゴムの空気式防舷材



2 船体間荷役作業で使われる空気式防舷材

このリリースに関するお問い合わせ先
横浜ゴム（株）広報部 担当：山下
TEL：03-5400-4531 FAX：03-5400-4570